

山田養蜂場の植樹活動 コロナ禍でも継続 中国雲南省の山火事による荒廃地に2万本を植樹

株式会社山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町、代表：山田英生）は、6月24日（木）～7月1日（木）に中国雲南省昆明市の西山荒廃地にて植樹活動を実施しました。

例年、従業員を現地に派遣し、地元の住民と共に植樹を行っていましたが、昨年からは新型コロナウイルスの影響により、日本からのリモート指導による植樹を行っています。本年は、中国雲南省楊善州緑化基金会や西山林場の職員など現地の人々約100名で、ウンナンザクラ、フランチェティカシなど8種類、合計2万本の苗木を植えることができました。中国本土での植樹本数は、今回で合計161万本を超えました。国内外での植樹総本数は220万本を超えています。



■ 現地の人たちに、宮脇式植樹を指導

当社は、世界的に高い評価を受けている生態学者、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏みやわきあきらが提唱した、その土地本来の植生に基づく多種類の樹種を混ぜながら密植する「宮脇式植樹」を実践しています。今回は、日本から参加できなかったため、宮脇氏の後継者である同大学名誉教授の藤原一繪氏ふじわらかずえが、現地の江蘇師範大学尤海梅博士こうそ ゆうかいばいを通じて、植樹活動の意義、樹種、植樹方法などを指導しました。



▲ 昨年の植樹場所。この1年で苗木がよく育っています。

■ 植樹場所は、山火事で荒廃した土地



2020年、雲南省楊善州緑化基金会と共同で、5か年計画の植生回復プロジェクトを開始しました。植樹場所は、雲南省最大の湖「滇池」を見渡せる、標高2,200mの急斜面で、元々はユーカリの植林地でしたが、山火事のため荒廃地となっています。



▲ 今回の植樹地

成長が早いユーカリは、資材用によく植林されます。しかし、ユーカリの精油には引火性物質が含まれており、頻りに山火事が発生していました。単一樹種の画一的な植樹は、生態的にも非常に脆いものです。その土地本来の森であれば、火事や地震などの自然災害にも耐えられるというのが、宮脇式植樹の特徴であり、荒廃地に常緑広葉樹を密植・混植することによって、山火事などの災害を防ぐことにもつながります。

【メディアお問い合わせ先】

株式会社山田養蜂場 文化広報室 森山 (em1856@yamada-bee.com) 早瀬 (ch0517@yamada-bee.com)

〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場 194 TEL : 0868-54-1906 FAX : 0868-54-3346

■山田養蜂場の植樹活動

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



植樹活動の始まりは 1998 年にさかのぼります。当社代表の山田英生がネパールを訪れた際、森林が大量に伐採されており、それに伴う大規模な土砂崩れが発生している実態を知ったことがきっかけです。

翌 1999 年よりネパールで植樹活動を開始し、2001 年からは、植物生態学の権威で、現地の植生に合った木々を密植・混植する「宮脇式植樹」を提唱する、横浜国立大学名誉教授・宮脇昭氏に師事。同年に、砂漠化が進む中国北部で、横浜国立大学と共同で植生調査を開始し、2004 年より植樹活動を続けています。

当社の原点は、自然とともに生きる養蜂業です。「自然との調和」を理念に掲げており、未来の子供たちに豊かな自然環境を受け渡す責任があると考えています。今後も植樹活動を続け、植えた木で自然環境を回復し、人々の命を守る本物の森づくりに貢献してまいります。

■プロフィール



宮脇 昭 (みやわき あきら)

1928 年生まれ。岡山県出身。横浜国立大学名誉教授、(財)地球環境戦略研究機関 国際生態学名誉センター長。ドイツ国立植生図研究所で潜在自然植生理論を学び、世界を舞台に国内外 1,700 ヶ所以上に、合計 4,000 万本を超える植樹を行ってきた。その土地本来の樹種「潜在自然植生」に基づく植樹を実践、指導。また、東日本大震災を受けて、植樹による緑の堤防づくりを提唱。2006 年には、地球環境への貢献が認められ、日本の研究者として初めてブループラネット賞を受賞。



藤原 一繪 (ふじわら かずえ)

1944 年生まれ。横浜国立大学卒業。CNRS フランス中央研究機関給費研究員(リール大学)、横浜国立大学大学院環境情報研究院教授などの経歴をもつ。現在、横浜国立大学名誉教授、横浜市立大学特任教授。宮脇昭氏と共に国内外での森づくりを指導。著書に「混源植物」「環境問題を考える」(共著)「東南アジアの植物と農林業」(共著)「日本植生誌」全 10 巻(共著)など。

山田養蜂場の植樹活動

1999年	ネパール (カトマンズ地区) で、700本を植樹
2000年	ネパール (カトマンズ地区) で、15,000本を植樹
2001年	ネパール (カトマンズ地区) で、35,000本を植樹 岡山県鏡野町で、30,547本を植樹
2002年	ネパール (カトマンズ地区) で、30,000本を植樹
2003年	ネパール (カトマンズ地区) で、50,000本を植樹
2004年	ネパール (カトマンズ地区) で、44,000本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、1,050,028本を植樹 岡山県鏡野町で、63,900本を植樹
2005年	ネパール (カトマンズ地区) で、10,000本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、25,150本を植樹
2006年	ネパール (カトマンズ地区) で、13,654本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、55,150本を植樹 岡山県鏡野町で、4,730本を植樹
2007年	ネパール (カトマンズ地区) で、17,234本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、50,000本を植樹
2008年	ネパール (カトマンズ地区) で、21,000本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、50,000本を植樹
2009年	ネパール (カトマンズ地区) で、50,660本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、50,000本を植樹
2010年	ネパール (カトマンズ地区) で、50,660本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、50,000本を植樹 岡山県津山市で、15,982本を植樹
2011年	ネパール (カトマンズ地区) で、50,530本を植樹 中国 (安徽省) で、40,000本を植樹
2012年	ネパール (カトマンズ地区) で、60,852本を植樹 中国 (安徽省) で、40,000本を植樹 岡山県津山市で、10,000本を植樹
2013年	ネパール (カトマンズ地区) で、501本を植樹 中国 (安徽省) で、40,000本を植樹
2014年	ネパール (カトマンズ地区) で、2,500本を植樹 中国 (内モンゴル自治区) で、30,000本を植樹
2015年	ネパール (カトマンズ地区) で、2,000本を植樹 中国 (広東省) で、1,000本を植樹
2016年	ネパール (カトマンズ地区) で、2,000本を植樹 中国 (広東省) で、12,000本を植樹
2017年	ネパール (カトマンズ地区) で、2,000本を植樹 中国 (広東省) で、25,000本を植樹
2018年	ネパール (カトマンズ地区) で、2,761本を植樹 中国 (広東省) で、29,500本を植樹
2019年	ネパール (カトマンズ地区) で、1,500本を植樹 中国 (広東省) で、25,000本を植樹
2020年	中国 (雲南省) で、20,000本を植樹 岡山県津山市で、1,000本を植樹
2021年	中国 (雲南省) で、20,000本を植樹

総植樹本数：2,201,539本

(海外：2,075,380本、国内：126,159本)